

明日へ向かって駆ける

農業法人の経営者は語る

「より住みやすい地域にするには、農業経営で安定した雇用を生み出す会社が必要だ」と話すのは、福知山市牧地区の「㈱味歩里(みぶり)」代表取締役社長の牧晴喜さん(70)。

同地区は、市北部の国道9号と75号の分岐点に位置し、由良川水系の牧川沿いに農地が広がる。同社では、露地1畝とハウス40棟で生産する九条ねぎを経営の柱に、現在32畝の農地にキュウリなどの野菜類や大豆、「コンヒカリ」や酒造好適米など、多岐にわたる品目を栽培し、J A出荷をはじめ契約栽培や加工販売も手掛けている。

2007年1月、J Aや行政の指導を受けて地域合意を元に株式会社を設立してから10年。設立時から経営に携わる牧さんは「祖父母がやっていた田んぼの場所も知らず、農業経験も無い中で法人経営に関わるようになった。

設立当初は試行錯誤の連続だった。J Aや府などの研修会に積極的に参加し、農業に関する知識を身に付け、経営に生かした」と振り返る。最初はフェイスセンター運営と農作業受託を中心に、ダイコンやカブなど家庭菜園の延長のように始めたがうまくいかなかった。そのため、農業経験者を社員に迎え、新たな品目に取り組んだ。事業計画や対外的な対応は社長が行い、現場は各担当者に仕事を任せることで責任感を持って働いてもらうことにつながった。「農業は手を掛ければ掛けるほど成果が出る」と労を惜しまず熱心に励む。多くの農業機械を所有しているが、社員に農業機械のエキスパート

がおり、修理の対応ができるため、経費の抑制に一役買っている。しかし、異常気象によって、農作物に被害が出たり計画通りに作業が進まないことなど、農業経営に大きな影響が出ている。また、多くの従業員を雇用すれば人件費もかさむ。だからこそ、機械による効率化や加工品の販売などでロスを減らし、補助金なども有効に活用しながら、経営を下支えできる取り組みを進めている。



▲農業に魅力を持たせるために奮闘する牧さん

ど、会社の中でアイデアを出し合い、新たな商品を開発している。考え方に幅を持たせることで新しい知恵が浮かんでくる」と牧さんは言う。

「地域を守るためにはまず会社を守る。それが最終的に地域を守ることにつながる。味にこだわり、一歩一歩確実に前進し、ふる里を大切に会社へと名前に込めた通り、次の世代に夢を持ってもらえるような農業経営をめざしていきたい」と牧さんは熱い思いを語る。

■法人所在地 福知山市字牧小字神谷285ノ1。(電)0773(23)3320。

■法人概要 取締役5人、監査役2人、正社員10人、アルバイト2人、農繁期のみパートタイマー3人。経営面積 32畝(コシヒカリ6.5畝、酒造好適米8.7畝、加工用米3.1畝、もち米1.9畝、ホールクロップサイレージ(WCS)1.6畝、小麦・小豆4.5畝、大豆(白・黒)1畝、九条ねぎなどの野菜を露地1畝とハウス40棟(1.5畝他)。農業機械 トラクター・フォークリフト各3台、田植え機・コンバイン各2台、バックホー・ブームスプレーヤー各1台、穀物乾燥調製機一式(乾燥機6基、色彩選別機他)、水稻播種(はしめ)機一式、ネギ用播種機・育苗機・移植機一式、ネギ洗い機1台他。

雇用生み地域を守る

代表取締役社長 (株)味歩里

牧 晴喜さん